

ごあいさつ

急速に進む経済のグローバル化、高度情報化の伸展、地球環境、少子高齢化、財政不均衡など内外の様々な課題に直面しています。バブルの崩壊後20年、低迷・混迷の中にある時、3.11「東日本大震災」が発生しました。地震・津波や原発の重大事故などにより、多数の人命や莫大な産業及び経済的な基盤を失いました。亡くなられた方々のご冥福と被災された方々に心からお見舞いを申しあげます。

復旧・復興にはかなり長期で大きな困難が予想されます。加えて原発事故の収束と電力不足は産業や日常生活への影響が心配される事態となっております。このような非常事態への対応はもとより、今わたくし共に求められているものは、大震災後の国のあり方や社会の在り方を、過剰な「物質・効率・便利」主義の価値観を見直すことから始めるということだと考えます。多少不便でも「安心・絆・助け合い」の隣人愛や「コミュニティ」主義は、予想を遥かに超える「義捐金」やNPOなどの支援活動にもすでに現れています。被災地に寄せられる世界各国からの温かい支援活動も、大きな勇気と希望を与えているに違いありません。英知を結集してこの困難を乗り越え、「日本の奇跡」を後世に伝えたい、それが世界への大きな貢献にもなるものと思っております。

公益法人制度の改革は5年の丁度折り返し点を迎えています。私どもは自由で創造的な民間公益活動の発展と「日本の再建」にいくらかでも貢献できる事を願って移行の準備を進めております。

財団法人MRAハウス
代表理事 渋沢 雅英